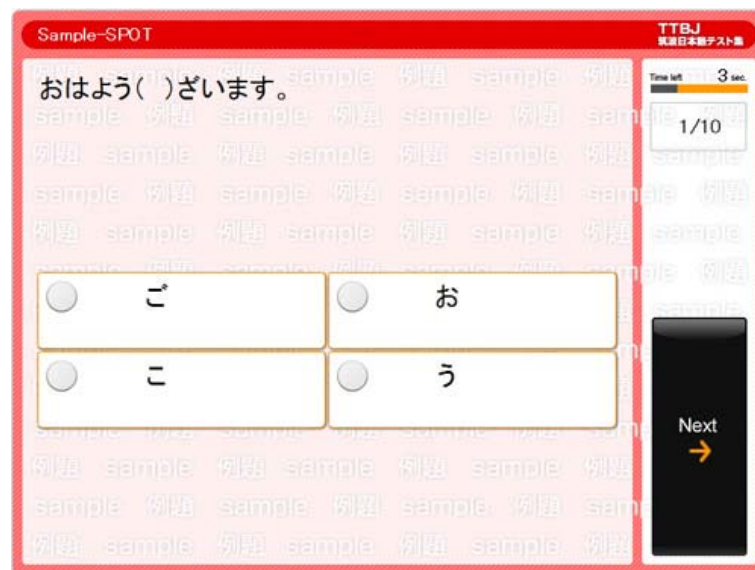


SPOT90

どんなテストか

自然なスピードで読み上げられる文を聞きながら、画面上の同じ文を読み、空欄に入れるひらがな一文字を選択するテストです。解答時間は1問につき3秒です。即時的に日本語をどの程度処理できるかを調べることで、運用力を間接的に測っています。少し聞きにくかったり、解答時間が短すぎると感じるかもしれませんが、実力があれば、問題なく聞き取れ、時間も十分あると感じるでしょう。



テストの構成要素

自然なスピードで読み上げられる音声情報と、それに対応する同じ文が画面上に同時に提示され、読み上げ終了後解答選択肢が提示されます。最も困難度の高い90-3は、音声を聞き取りにくいように加工しています。

実施時の注意事項

- テストを始める前に、音量のチェックをしてください。
- テストを始めたら、決してブラウザのバックボタンをクリックしないように注意してください。不正終了してしまいます。
- テストの前に答え方の練習をするための例題があり、これは何度でも練習できます。テストが始まったら、前にもどることはできませんので、例題を十分に練習してからテストを始めるように、受験者に指示してください。
- 画面上の指示にしたがってテストを始め、問題に解答して、終わってください。

1. SPOT が有用な場合と、SPOT では測定できないこと

SPOT は運用力まで含めた全体的なおおよその日本語能力を短時間に測定する道具です。

<SPOTが有用となる場合>	<SPOTでは測定できないこと>
<ul style="list-style-type: none"> ・運用力を含めた全体的な日本語能力を測る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・細目的な知識（文法／語彙／漢字力）や技能別の能力の診断
<ul style="list-style-type: none"> ・能力差が比較的大きい集団を2～4段階程度の能力別グループに分ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・アチーブメントテスト ・能力差の小さい集団での識別

2. SPOT(Simple Performance- Oriented Test)とは

SPOT は母語話者の自然な話速度の読み上げ文を聞きながら、解答用紙に書かれた各同文を読み、それぞれ1箇所のひらがな1文字分の空欄（文法項目部分）に穴埋めディクテーションするというテストです。各文は互いに関連なく、独立しており、通常は全部で60問程度を実施します。

自然な速度で話された文のひらがな1文字だけを部分的に切り出したものを聞き取ることは非常に難しいものです。しかし、単語、文というような塊の中にあると、その聞こえなかった部分がはっきり聞こえてきます。例えば、「つくえ」の「く」の部分だけ音を切り出して聞いても音を同定することは難しいですが、単語で聞けばそれが聞こえます。これは私達が「頭」で聞いているからに違いないのです。母語話者は日本語の音韻システムや語彙知識、構文知識などの知識に基づいて推測し、そのように音声を瞬時に同定しています。このような認知的側面を利用して考案したテストがSPOTです（小林・フォード1992、フォード他1995、小林他1996等）。SPOTの空欄部分は消音したり、ノイズなどで隠すことなく読み上げられるため、解答が音声で与えられているわけですが、日本語力が不足している場合には、これを聞き取って書き取ることができません。

3. テストの真正性

SPOTのテスト問題画面をみただけで、このテストは、真正性に欠ける（「authentic」ではない）と批判する人がいます。確かに、読解や聴解で求められるような談話の流れをつかみ正しく文脈を理解するというような能力を直接に測ることはできません。現実の社会で、このようにバラバラの脈絡のない文を続けて聞くという状況はありませんから、そういう点でこの批判は当たっています。

しかし、一方でSPOTは即時的に言語処理をしていくという認知的な面で、authenticであると考えられます。それも、音声処理と、文字処理を同時に、「ながら作業」ができないと得点できません。すなわちSPOTで得点できるということは、その問題の言語処理がある程度自動化している（無意識に使える状態）ということを意味します。ゆっくり頭の中で言語知識を統制しながらの読解や会話は、現実社会では通用しません。自動化の程度が得点に影響するSPOTはPerformanceを直接測定していませんが、間接的に測定していると考えられます。